

天国の友思う旋律

今年三月にがんで亡くなった親友の生きた証しを残り、名古屋音楽大同窓会会長で音楽家の野村朗さん(金丸)が追悼曲「挽歌」を作曲した。自身も腎臓病を患う野村さん。「自分が病気に苦しんでいたとき、心の支えになってくれたのが彼。この曲の中で永遠に生き続ける」。二十八日に同市中区栄の三井住友海上しらかわホールで開かれる同窓会コンサートで披露する。(天田優里)

亡くなった親友は、愛知 淑徳大教授の堀江幹雄さん(享年五十七、岐阜市)。二人は人が出会ったのは野村さんが十七歳、堀江さんが十五歳の夏だった。野村さんは岐阜県立加納高校音楽科に入学後すぐ腎臓病を発症。別の定時制高校に転校を余儀なくされ、音楽活動も医者から止められていた。

夢を見失っていた時、自宅を訪ねてきたのが加納高の後輩の堀江さん。「作曲をやっていたと聞いた。ぼくと一緒にやりませんか」と誘われた。堀江さんの支

あすコンサート披露 名古屋の音楽家

は堀江さんを励ます側に。演奏会の打ち合わせで電話



堀江幹雄さん



がんで亡くなった友人にささげる楽曲を制作し、本番に向け音を確認する野村朗さん＝名古屋市中村区の同朋学園で

した時には「堀江君にコンサートの全体をまとめてほしい」と元気づけ、堀江さんも「弦楽のオーケストラを伴奏に入れて、サクソホンの協奏曲をやりたい」と前向きに答えた。

それから二年後、堀江さんは亡くなった。野村さんとは、亡くなる二週間前に電話で話したのが最後になった。「あのときはもう言葉が発しにくい様子だった」と話す。

追悼曲は半年ほどで書き上げた。歌詞に作家井上靖さんの詩を選び、故人をしのぶ心を込めた。「私は初めてあなたがこの世にないことを信ずることができたのです。その時初めて聞いたのです。あなたのために鳴り続けている鐘の音を」。堀江さんの生きた証しや一緒に過ごした思い出をピアノの旋律に乗せる。

演奏会は二十八日午後六時半開演、入場料千円。問い合わせは大同窓会事務局 電052(411)1111へ。